

日本レオロジー学会誌投稿規程

(2012年10月現在)

1. 投稿原稿

- 1.1 投稿原稿は、論文、ノート、総合論文、総説、速報、その他とする。
- 1.2 原稿の作成に当たっては原稿執筆上の注意に従い、英語または日本語を用いて作成する。原稿にはコピー1部を必ず添付する。
- 1.3 原稿の1枚目に題名、著者名、および著者の所属機関の公式名とその所在地を英文で書く。機関名および所在地は、それによって通信ができるように記す。電話、ファックス、電子メールで通信を希望する著者は、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレスを記す。
- 1.4 原稿が論文、ノート、総合論文、総説のときには、原稿の2枚目に英文要旨を書く。英文要旨は、研究の主要な成果がわかるように目的、方法、結果等を200語以内に要約したものとする。
- 1.5 Key Words (5語以内)をつける。
- 1.6 和文原稿の場合には、1枚目の論文題名の日本語訳、また著者名および著者の所属機関の公式名とその所在地の和名を原稿の3枚目に書き、4枚目から本文を始める。
- 1.7 和文原稿の場合でも、REFERENCESは英文とし、その形式は、Instructions to Authorsに従う。
- 1.8 原稿は必要事項が記載された投稿申込用紙とともに、〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地京都リサーチパーク(KRP)6号館3F 日本レオロジー学会誌編集委員長宛に送る。あるいは、電子メールの添付ファイルとして学会のメールアドレス (journal@srj.or.jp) 宛てに送る。その際、原稿と必要事項が記載された投稿申込用紙は、PDF化したものを送付する。

2. 論文

印刷物として未発表のものであって、レオロジーとその応用に関する価値ある結論あるいは事実を含むものとする。

- 2.1 原稿の1枚目に「Article」と明記し、緒言、理論、実験、結果、考察、結論の形式に従って書くことが望ましい。
- 2.2 原稿の長さは原則として会誌刷り上がり6ページ以内とする。

3. ノート

印刷物として未発表のものであって、論文ほど長くはないが、新しい事実や価値あるデータ、あるいはレオロジーを使った技術を含むものとする。

- 3.1 原稿の1枚目に「Note」と明記し、その他は論文に準じる。
- 3.2 原稿の長さは原則として会誌刷り上がり2ページ以内とする。

4. 総合論文

レオロジーとその応用あるいは関連事項について、一つの研究グループによって得られた優れた研究成果をまとめたものであり、将来への指針・展望を含むものとする。

- 4.1 原稿の1枚目に「Feature Article」と明記し、その他は論文に準じる。
- 4.2 原稿の長さは原則として会誌刷り上がり8ページ以内とする。

5. 総説

レオロジーとその応用に関連した特定の項目に関する研究を広くかつ普遍的に総括、解説し、その研究の推移を知る上に役立つものとする。

- 5.1 原稿の1枚目に「Review」と明記し、その他は論文に準じる。
- 5.2 原稿の長さは原則として会誌刷り上がり10ページ以内とする。

6. 速報

印刷物としては未発表のものであって、レオロジーとその応用に関する新規性あるいは独創性のある結論やデータを含み、できるだけ速く公表されることが望まれるものとする。

- 6.1 原稿は英文原稿とする。
- 6.2 原稿の1枚目に「Rapid Communication」と明記する。形式は自由とするが、簡潔かつ論理的に書かれていることが望ましい。
- 6.3 原稿の長さは原則として会誌刷り上がり2ページ以内とする。
- 6.4 Key Words (5語以内)をつけ、英文要旨はつけない。

7. その他

掲載論文に対する意見、解説、参加記、見学記、書評、随想、データ資料などとし、記事の長さは原則として会誌刷り上がり2ページ以内とする。

8. 審査・再投稿

投稿原稿の内、論文、ノート、総合論文、速報原稿の採否は編集委員会が決定する。編集委員会は投稿原稿について修正を求められることができる。修正を求められた原稿が返送の日より4ヵ月以降に再投稿された場合は新原稿として取り扱う。

9. 著作権

会誌に掲載された記事についての著作権は日本レオロジー学会に属する。

原稿執筆上の細目については、*Instructions to Authors* と最近発行の本誌論文をご参照ください。